

(様式2)

令和2年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
84	川崎市立土橋小学校	吉野 晶子

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
つながる心を大切にすること・ちからをあわせて進む子・はじける笑顔で学ぶ子を育てることを通してしあわせいっぱい土橋小学校をつくる	・違いが豊かさとして響きあう学校 ・安心して学び合える学校 ・地域社会に開かれた学校	・つながる心を大切にすることを育む ・ちからをあわせて進む子を育む ・はじける笑顔で学ぶ子を育む

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1	つながる心を大切にすること・思いやりをもって友だちに接する姿	○学校長をはじめとした教職員が毎朝校門の前であいさつ運動に取り組んでいる。教職員のあいさつする姿勢についても、保護者から良い評価をされるようになってきた。	校内であいさつをすることが当たり前になる雰囲気になってきており、全クラスであいさつができる児童が多くなってきている。地域でのあいさつにもつながってきている。知り合いにはあいさつできるようになってきたので、今後は他学年など広い範囲の人にあいさつできることをねらっていききたい。
2	・つなぐ・つなげるという意識で、いいなあと感じたことを伝え合う姿。 (人権尊重教育 特別支援教育)	○手洗いの励行、手指の消毒、マスクの着用への定着に努めた。また、子どもたちのソーシャルディスタンスを保ちながら、つながる場をどのように作っていか模索した一年間であった。	本年度は「1年生を迎える会」や「6年生を送る会」をリモートで行い、異学年交流を行った。今後も「WITH コロナ」の条件下でも子どもたちがつながることができる場を探っていききたい。
3	一人ひとりのよいところを見つけ、ほめたり、認めたりすることで、子どもと教師、子どもと子どもをつないでいきます。	○日頃から子どもの様子を丁寧に見取るよう心掛けている。子ども同士のつながりについては、まだ課題が残っている。	タイミングよく「ほめる」ことができるよう、教員が子どもの変化を見逃さない目を養うとともに心の余裕が持てるような工夫を積み重ねていきたい。子ども同士が関わる場を設ける場も増やしていきたい。
4	ちからをあわせて進む姿 ・双方向の思いやりをもった信じ合う姿	○教職員で協力して教材研究をしたり、ミニ研修会を開催したりするなど、日ごころから指導力向上に努め、分かる授業、できるようになる授業を目指している。	校内研究のみならず、教員同士の学び合いが根付きつつあるので、今後も研鑽を積んで「主体的・対話的で深い学び」の深化に取り組んでいきたい。
5	・信じ合う仲間とともに、学習や生活あらゆる場面で力を合わせて問題を乗り越える姿。 (主体的・対話的で深い学び 共生・協働)	○上級生(特に5、6年生)が憧れとなるよう、各学年の様子を互いに知ることができるような場をつくります。	ソーシャルディスタンスを保ちながら、高学年の子どもが活躍できる場をつくるようにしたい。高学年の子どもを背中を見て、低学年の子どもが憧れるような場面を増やしていくようにしたい。
6	教職員の協力体制、共通理解を進めます。	○「当事者意識」「迅速な対応」「情報共有」の3つのことを常に意識し、誠意ある対応を心がけた。	教職員のチームワークはよくなってきているので、さらによりよい対応ができるよう、今後も職員一同で研鑽を重ねていきたい。
7	はじける笑顔で学ぶ姿 ・安心して学ぶ姿、学ぶ姿を歓迎され受け入れられ共感してもらえる姿	○土橋スタンダードや「みんなのやくそく」などが定着し、学校のルールの見直し、定着は進んできている。	土橋スタンダードを子どもたちの実態に応じて変化させながら、今後も継続して、教職員・子どもの人権意識を高め、思いやりや助け合いが広がる「安心」できる学校づくりを進めたい。
8	・やってみようという意欲をもった姿、どんなことでも試せる教室、認められる喜び、やり遂げた喜びを味わう姿 (基礎・基本の学力に裏づけされた自己肯定感)	○「やってみたい!」「知りたい!」と思える授業、「できた!」「わかった!」が聞こえる授業をつくります。	○校内研究では「主体的に学び 豊かにかかわり 自分を高める子」の姿を求めて実践を積み重ねた。生活科・総合的な学習の時間の授業を公開することを通して、学校全体で授業力の向上に努めた。
9	「つなげる聴き方」のできる授業をつくります。	○新型コロナウイルス感染対策を講じながら、授業中の様々な場面でグループやペアによって協働したり話し合ったりするなど工夫して活動した。	一緒に学ぶ仲間と話したい、一緒に考えたいという気持ちが高まるように、「よい聴き手」を育て、「よい話し手」も育てる授業づくりを進めていきたい。
10	子どもも教師も報われ感や達成感を感じ、自己有用感を高められる場面をつくります。	○行事等はもちろん、日々の教育活動においても、子ども一人一人のがんばりを認め、励ます言葉かけに努め、それが子どもたちにも広げられるよう取り組んだ。	授業中や学年集会の時にほめる機会を設けている。今後も子どもの報われ感、達成感が感じられる場面を増やしていきたい。

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向け
土橋小学校運営協議会は、組織を刷新する途上にある。年度当初に掲げた2つの基本課題(安心・安全・健康の環境づくり、土橋アクションと学校評価)と5つの目標(土橋フェスタの刷新、ボランティア活動のコーディネート、地域の寺子屋事業の実施、CSサポート本部の刷新、CSだよりの発行)に、保護者・地域住民・学校で5つの担当と1つのプロジェクトを構成して取り組んだ。新たな形の土橋フェスタを実施したこと、チャレンジ学習を年間に分散した「寺子屋つっちゃん」として軌道に乗せることができたことは昨年度の大きな成果だったが、本年度はコロナ禍のため土橋フェスタを実施できなかったことは、大変残念である。 今年度の課題として、子どもの意見表明のしくみづくり、教育ボランティアの可視化と支援・活性化、地域学校協働活動の担い手としてCSサポート本部の充実が挙げられる。土橋小らしいコミュニティスクールを創っていききたい。	学校経営方針の具現化の方策としての「つちはしアクション」の策定や、アクションを基にした学校アンケートの実施、集計分析などを学校運営協議会の学校評価担当が担っている。 心をつなげるための下地として、校内、校外であいさつすることが当たり前になる雰囲気づくりを継続している。本年度はコロナ禍のために実施できなかったものの、異学年交流についても「つちのこ交流会」でペア学年と一緒に遊んだり、学年行事に招待し合ったりするうちに、子どもたちは異学年の友だちと交流する楽しさを感じ始めている。 学校評価アンケートでは、肯定的な回答が上昇しており、特に「土橋小学校は『よい学校』と思いますか」の質問に対しては「そう思う」という回答が昨年比で11ポイントアップするなど、保護者からこれまでの取り組みを評価していただいている。しかしこれで歩みを止めることなく、今年度成果のあった活動を深めたり、今年度少なかった活動を広げたりしながら、つちはしアクションのさらなる実現に向けて邁進していきたくと考えている。